

旅行取扱状況の概観（平成17年1月分）

海外旅行の取扱額をみると、団体旅行では一般団体は取り扱い低調で前年実績に届かなかったが、学生団体は取り扱い好調で大幅増となった。主催旅行はホリデイの前年実績が計上基準の変更に伴う異常値のため大きく前年実績を下回った。個人旅行は年末・年始の需要を取り込み、前年実績を大きく上回り好調であった。この結果、海外旅行合計はホリデイの異常値が影響し前年比86%となったが、異常値を修正した前年比は126.5%程度と好調であったと言える。

国内旅行の取扱額をみると、団体旅行では一般団体、学生団体ともに取り扱い不振で前年実績を下回った。主催旅行ではメイトが大幅に前年実績を上回ったが、これは前年実績が異常値の影響によるものが大きい。個人旅行では、JR券、宿泊券、航空券と観光性需要が不振で、いずれも前年実績には達しなかった。国内旅行合計は、前年比で113%と大きく前年実績を上回ったが、メイトの異常値を修正した前年比は95.1%程度と前年実績に達していない。

国際旅行は、取り扱い好調で、前年比196.7%と大きく前年実績を上回り、前月に続いての前年比プラスとなった。

1月の総取扱額は、前年比100.5%と前年実績を上回るスタートとなった。（国内・海外主催旅行の異常値を修正した前年比は106.4%である。）

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体は取り扱い絶対額の少ない時期ではあるが、イベント関係・その他団体ともに取扱件数が減少し、10ヶ月振りに前年実績を下回る結果に終わった。一方、学生団体は大きく前年実績を上回り、11ヶ月連続の前年比プラスと依然好調に推移している。方面別の取り扱いでは、各方面とも前年実績を上回ったなかで、スマトラ沖地震の影響により、タイが前年から半減、マレーシアも前年の70%程度と大きく減少した。

(2) 主催旅行

ホリデイの取扱額と取扱人数の乖離は、前年実績が計上基準の変更に伴う異常値のためであり、異常値を修正した取扱額前年比は126%程度の状況である。方面別取り扱いでは、アジア、ハワイが好調で、なかでも中国、韓国、台湾、香港、インドネシアが大きく前年実績を超えている。但し、タイ(前年比50%)とマレーシア(前年比65%)はスマトラ沖地震の影響を受けて大幅に減少した。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体はイベント関係の扱いは好調であったが、その他団体の不振により大きく前年実績を下回った。学生団体も、修学旅行・校外学習等の取扱件数が減少し、前月の好調から一転して3ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

(2) 主催旅行

メイトは近場商品が伸び悩んだが、北海道、九州、沖縄といった遠距離方面が好調であった。取扱人数の伸びに対して取扱額の伸びが大きく乖離しているのは、前年実績が計上基準の変更に伴う異常値の影響であり、異常値を修正した取扱額前年比は112%程度の状況である。

(以上)